サルワの板絵

A0221
ペルー

アンデスの玉手箱ーペルー南高地の祭りと生活

参照資料

図録『アンデス文明』
p.181

a　b　c　d

PINTURA POPULER DE SARHUA

ペルー南部高地アヤクチョ地方のサルワの村人が描く絵は、民衆芸術の一つとして最近とくに人気が高まっている。農村の日常生活や祭りを題材にした絵の脇には、短い説明文が付け加えられているのが一般的である。

關先生からのひとこと

a の板絵は、牛の角を継ぎ足してリング状にした角笛（ワラプク）吹く男性を描いています。

b の板絵は、夫婦でしょうか、上段では仲良く寝ていますね。下段では男性がトウモロコシのお酒チチャをヒョウタン容器から注いで飲んみ、女性は、左手に持った原毛を右手で撚って棒に巻き付けています。

c の板絵は、男性が紡いだ糸で女性が機織りをしている場面を表しています。腰機といって、一方の端を木などに固定し、反対側を自分の腰に結びつけ、ぴんと張った状態にして織り込みます。

d の板絵は、病気を治療している場面です。クランデーロとよばれる呪術師の医者が、クイという食用モルモットを病人の身体につけて悪い場所を探らせます。その後、上段にあるようにクイを燃やして病気の原因となったものを追い払います。